

9月8日（火）15:00～16:30

危機下の教育と識字を守る3側面の取り組み ～支援事業、政策提言、社会啓発～

内容

9月8日「世界識字デー」と9月9日「教育を攻撃から守るための国際デー」を記念し、「支援事業（現場）・政策提言・社会啓発」という3つの側面から紛争などの危機下における識字・教育を守るための具体的な取り組みを共有し、それぞれの連携が生む相乗効果について参加者とともに考えます。

2026年現在、約2億5,800万人もの学齢期の子どもと若者の教育が、紛争などの危機的な状況により深刻な影響を受けています*¹。また、世界の成人識字率は2000年の81%から2024年の88%に上昇しましたが、いまだに7億3,900万人が読み書きができず、低所得国においては若年層の約4人に1人が非識字で、さらにその数は増加しています（GEM2026）*²。本セッションでは、まず危機下の教育が抱える課題と識字の現状を俯瞰し、問題提起したうえで、以下の3つの側面から具体的な取り組みを紹介します。

①支援事業（現場）の側面：

イエメンにおける教育支援事業を取り上げ、困難な状況下でも学びを届けるための実践と工夫を共有します。

②政策提言の側面：

議員による現地視察について報告します。ブラックボックスと捉えられがちな政治へのアドボカシーがいかに関心され、どのような効果をもたらしているかについて探ります。

③社会啓発の側面：

日本の教育現場における危機下の教育に関する学習や、子ども・ユース参加型キャンペーンの取り組みについて紹介し、社会の理解と関心を高める活動の意義を考えます。

後半では、「支援事業・政策提言・社会啓発の相乗効果を生むためには何が必要か」をテーマに、登壇者によるパネルディスカッションを予定しています。

*1 Education Cannot Wait, "New global estimates reveal 258 million children affected by crises as learning losses threaten an entire generation", 2026.06.23

*2 2026 Global Education Monitoring Report

主な対象者

どなたでもご参加いただけます。（特に、教育全般に関心のある教育協力実務者、教育関係者、政策決定者および省庁関係者、アカデミア、学生、開発コンサルタントの方など）

開催方法、使用言語、セッションスタイル

開催方法	オンライン（想定人数：80人）
使用言語	日本語
セッションスタイル	事例発表、パネルディスカッション

登壇者

・三宅隆史

教育協力 NGO ネットワーク (JNNE) 事務局長
シャンティ国際ボランティア会 (SVA) 教育アドバイザー
立教大学文学部特任教授

・大野容子

(公社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン アドボカシー部
グローバル政策提言チームヘッド

・小山光晶

(公社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 海外事業部
プログラムコーディネーター 中東・南アジア地域 教育事業担当

・松山晶

(公社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン アドボカシー部
社会啓発オフィサー 紛争下の教育・子どもの権利の啓発などを担当

・唐語思（司会進行）

(公社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 海外事業部
プログラムコーディネーター 中東・アフリカ地域 子どもの保護担当

備考

【プログラム】

- ・問題提起：世界の識字と危機下の教育の現状（三宅隆史）
- ・①支援事業の側面：イエメン教育事業の成果と振り返り（小山光晶）
- ・②政策提言の側面：現場視察を通じた議員アドボカシー（大野容子）
- ・③社会啓発の側面：日本の教育現場と現地をつなげる啓発活動（松山晶）
- ・課題整理・Q&A・ディスカッション：
「支援事業・政策提言・社会啓発の相乗効果を生むためには？現状の課題と今後の展望」
- ・クロージング

本セッションは、セーブ・ザ・チルドレンと教育協力 NGO ネットワーク (JNNE) の共催となります。